

グループ学習に対する児童生徒の目標設定・評価の方法

2024 年 9 月 1 日作成
至学館大学 鈴木正則

注) 本稿では、グループ学習に対して児童生徒自身が行う目標設定や評価（自己評価や相互評価）の方法を示す。ここでは教師によるグループ学習に対する評価には触れない。なお、本稿は試案の段階であり、今後、小・中学校の実践結果をふまえて改善していく予定である。

1. 前提

事前に児童生徒に以下のことが指導されていることが前提である。以下の内容は別資料「グループを活かした協同解決型の算数・数学－理論と指導方法－」（至学館大学 鈴木正則研究室 HP よりダウンロード）を参考にする。

- ・協同の意識に関する指導
- ・スキルに関する指導（社会的スキル、対話のスキル、発言のスキル、説明・聴くに関わるスキル）
- ・グループ学習の運営、話し合いのルール、話し合いの進め方に関する指導

1. グループ学習の自己評価

(1) グループ学習に対する児童生徒の目標設定・評価に関わる基本的な枠組み

下のようにグループの視点と個人の視点で目標設定と評価を行う。

① グループの視点

自分達のグループが目指す学びの姿を目標として設定し、その目標にどれだけ近づいているかを話し合い評価する。

② 個人の視点

個人の視点には2つの側面がある。一つはグループ学習における個人の目標とその自己評価、もう一つは所属グループへの貢献に関わる目標とその自己評価である。

(2) 目標設定

目標は、下のように学級、グループ、個人の3つのレベルで設定する。

① 学級の目標（目指す授業像やグループ学習像）

協同の考えをベースにして、学級全体として目指す授業像やグループ学習像を話し合い共有し、目標やスローガンを設定する。目標の主語は「(学級の) みんな」となることを意識させて目標を考える。

協同の考え方をベースにした級訓を設けている学級では、級訓をもとに目指す授業像を話し合うとよい。なお、その場合、目標やスローガンは級訓そのものでもよいが、級訓に込めた意味を児童生徒間で話し合い、授業における具体的な活動の姿を共有することが大切である。教師の押し付けにならないよう、児童生徒の意識を大切にする。

<例>

- みんなで取り組もう、みんなが伸びよう
- みんなで励まし合い、高め合おう
- みんなで力を合わせて、レベルアップしよう

<指導例>

□ 振り返り、目標と目的の共有化

これまでの自分たちの授業やグループ学習の状況を振り返り、よい点と改善点を話し合い、目標を設定する。

□ モデルの参照

協同的な学習を効果的に進めている授業 VTR を視聴したり、モデル学級を児童生徒が参観したりして、自分達の授業をよりよくしていく上で参考にしたい点を共有し、目標を設定する。

観察の視点

自分たちの授業に対する取組と比較する。

- ・グループでの関わりはどうか、どんなことに気を付けているのか。
- ・全体の話し合いでの関わりはどうか、どんなことに気を付けているのか。
- ・よい授業にするために、どんなことに気を付けているのか。

② グループの目標

グループの編成時にグループの目標を設定する。学級の目標にそって、グループメンバーの特性を考慮して目標を設定する。目標の主語は「(グループの) みんな」「私たちのグループ」となることを意識させて目標を考える。

<例>

みんなが話し合いに参加しよう

みんなで声を掛け合い、楽しく話し合おう

納得するまで話し合おう

みんなが説明できるようになろう

みんなが問題を解けるように協力し合おう

おいてきぼりのないグループになろう

自由に言い合えるグループになろう

③ 個人が設定する目標

個人が設定する目標には、グループ学習における「個人の目標」と「グループへの貢献」の2つの目標を設ける。「個人の目標」と「グループへの貢献」の目標は、グループの目標をたてるのにあわせて設定する。また、たてた目標はグループ内で共有する（誰がどんな目標をたてたか）。目標は小さなことから始めればよい。

ア. 個人の目標

グループ学習において個人でがんばる目標を設定する。目標は1つか2つ決める。

注) 下のような目標の例を教師が示して考えさせてもよい。

<例>

意見を積極的に言う。

積極的に質問する。

分からないときはそのままにせず「分からない」と相手に伝える。

他のメンバーの説明をよく聴いて分かるようにする。

すぐに人を頼らないで自分でしっかり考えてから意見を言うようにする。

説明を聴いて分かったら解き直しをする。

説明を聴いて分かったら自分の言葉で説明し直す。

分かりやすい説明ができるようにする。

説明ではヒントが言えるようにする。

他の説明を聴いて、いろいろな考え方ができるようにする。

イ. グループへの貢献

グループで設定したグループ目標を達成するために一人一人が貢献することを1つか2つ決める。

注) 下のような目標の例を教師が示して考えさせてもよい。

<例> 注) それぞれの場合毎に目標を設定するのではない。

社会的スキル・対話のスキルに関する目標をたてる場合の例

アイコンタクトをする。

うなずいたり、返事をしたりして反応を返して、話す人が話しやすい雰囲気をつくる。

「わかった？」とみんなに声をかける。

発言の少ないメンバーが発言できるように声をかける。

みんなが意見を言えるように発言を促す。

課題遂行行動（話し合い）に関する目標をたてる場合の例

みんなが理解できるように、メンバーに理解しているか確認する。
話し合いが活発になるようにたくさん意見を言う。
話し合いが深まるように質問や付け足し意見を言う。
分からない子を助ける。
分からない子や間違えた子がいたら積極的に説明する。
他の人の考えのよい点を指摘する。
他の人の考えが良くなるように意見を言う。
他の子の意見に付け足し（補足）をしてよりよい意見を言う。
みんなの考えをまとめる。
いろいろな考え方を比較してよい考え方になるように意見を言う。

集団維持行動に関する目標をたてる場合の例

みんなが話し合いに参加できるよう進め方を調整する。
がんばっている子を励ます。
みんなが参加できるよう楽しい雰囲気づくりをする。

ウ. 目標のグループ内共有

グループ学習における個人目標とグループへの貢献事項について、グループ内で共有し、後述する評価表に整理しておく。

(3) 評価

評価は個人自己評価（「個人の目標」に対する自己評価、「グループへの貢献」に対する自己評価）、グループ自己評価、グループ内相互評価、学級全体の評価の4つの側面がある。
グループ内相互評価は肯定的なフィードバックを受けることができるよう配慮する。

① 個人自己評価

ア. 個人の目標に対する自己評価

自分がたてた「個人の目標」に対して達成度を自己評価する。
評価に際しては、数値化、例えば、5段階（1, 2, 3, 4, 5）で評価し、評価表に記入する。
その点数をつけたコメントを記入する。

イ. グループへの貢献に対する自己評価

自分がたてた「グループへの貢献」に対して達成度を自己評価する。
評価に際しては、数値化、例えば、5段階（1, 2, 3, 4, 5）で評価し、評価表に記入する。
その点数をつけたコメントを記入する。

ウ. 評価の時期・期間

グループ学習の時間を十分に確保した授業後に評価する。
評価に際しては評価表に記入し、累積していく。

エ. 個人目標の評価表の例

<グループ評価の評価表 個人用>

班・メンバー	個人の目標		グループへ貢献すること	
班 氏名				
月 日	点		点	
月 日	点		点	
月 日	点		点	
	点		点	

<グループ評価の評価表 個人用 記入例>

班・メンバー	個人の目標		グループへ貢献すること	
4 班 氏名 山田花子	積極的に意見を言う。		分からない子に積極的に説明する。	
7 月 3 日	点 2	意見があったが言えなかった。	点 2	○さんに確認を取りながら説明したら○さんがわかったと思う。
7 月 10 日	点 4	今日は付け足し意見がたくさん言えた。	点 5	自分の説明で○さんが分かってくれてよかった。
7 月 14 日	点		点	

② グループ自己評価

ア. 評価の方法

グループの目標に照らして、グループの達成状況を点数化（例えば 5 段階）し、よくできたこと、今後よくすることをメンバーで話し合い、評価表に記述する。

話し合いでは、(4)で示すようにメンバーに肯定的なフィードバックを与えるようにする。

イ. 評価の時期・期間

グループの編成期間に応じて、期間内に数回実施する。例えばグループの期間が 2 か月の場合は 2 週間で 1 回程度実施する。グループ意識を高めたい場合は評価回数を多くする（1 週間に 1 回）場合もある。

ウ. グループ目標の評価表の例

班・メンバー		グループの目標	
班			
メンバー		個人の目標	グループへ貢献すること
月 日	点	できていること	
		よくすること	
月 日	点	できていること	
		よくすること	
月 日	点	できていること	
		よくすること	

<記入例>

班・メンバー		グループの目標	
4 班		全員が説明できるようになろう	
メンバー		個人の目標	グループへ貢献すること
山田 花子		積極的に意見を言う。	分からない子に積極的に説明する。
6 月 1 日	点	できていること	
		Aさんと、Bさんがよく意見を言ってくれるおかげで少しずつ説明できるようになった。	
6 月 1 日	2	よくすること	
		CさんやDさんに「わかった？」と声をかけるようにして、みんなが説明できるようにする。	

6月15日	点	できていること Cさんが自分から説明をしてくれるようになった。
	3	よくすること Dさんが説明できるようにみんなでがんばろう。
6月30日	点	できていること Dさんが説明するときに他の人が励ますようになった。
	4	よくすること 説明できるようになったので全体場で発表しよう。
7月1日	点	できていること
		よくすること

④ グループ内相互評価

ア. 評価の時期

グループ内の互恵的な意識を高めるために、「個人自己評価」と「グループ自己評価」を行う際に、メンバー間で相互評価をする。

イ. 方法

相互評価は声を掛け合う活動として、その際に、相手に肯定的なフィードバック（Johnson・Johnson, 1996 石田訳 2016）を与える（メンバー間で肯定的なフィードバックの言葉を交わす）ようにする。

◆ ポイント

- 小さなことでも頑張っていることを認めて伝え合う。
- 感謝していることを伝え合う。
- 本人が気付いていないが、がんばっていることやグループに貢献していることがあればそのことを伝え合う。

□ 肯定的なフィードバックで用いる言い方

- ・○さん（名前を言う）は～をがんばっていてすごいね。
- ・○さんは～をしてくれるので感謝しています／～してくれてありがとう。
- ・○さんが～してくれることがグループのためになりました。
- ・○さんは～できなかったけれど、～してくれたのでおかげで私は～できました。

□ 肯定的なフィードバックの言葉の例

・個人自己評価を付けるとき

- 「○さん、今日は分からないとたくさん言えてすごいね」
- 「△さん、今日は△さんの意見がわかりやすかったよ。おかでよくわかったよ」
- 「○さん、今日は分からないとあまり言えなかったね。私が「わかった？」と聞けばよかったね」
- 「△さん、説明があまりできなかったみたいだけど、いいことを考えていたから今度説明してね」
- 「□さん、個人評価が下がっているけれど、いい意見をいつているよ」
- 「△さん、個人評価がだんだんよくなっているな」

・グループ自己評価を付けるとき

- 「○さんが良く意見を言うってくれるおかげで、グループのポイントがあがったよ」
- 「○さんがグループの雰囲気をよくしてくれて感謝しています」
- 「私が分からなときに、○さんが「わかる？」「大丈夫？」と声をかけてくれるので、安心して分からないと言えます」
- 「○さんは、意見が少ないけどその分、みんなの意見をしっかり聴いているね。私も話しやすいよ」

⑤ 学級の目標に対する評価

ア. 評価の時期

グループ評価を実施した時期にあわせて行う。

イ. 方法

各グループが行ったグループ自己評価結果（達成したこと、改善すること）を総括させて、学級全体で発表し合う。次に、グループ自己評価結果を総括して、学級全体として達成していることは何か、改善していくことは何かを具体的な活動の姿で話し合う。その結果もとに、次の学級の目標を設定する。

(4) その他 Tチャートの活用

目標を具体的に意識し、行動化できる方法として、Tチャート (Johnson・Johnson, 1996 石田訳 2016) による方法がある。Tチャートは下のように「しぐさ・行動（非言語的）」とそれに対応して「言葉・言い回し（言語的）」を記述する。Tチャートは目標設定に際して、教師が目標に対する具体的な行動や言い方を指導する際に活用するとよい。

＜説明することに関するTチャートの例＞

Tチャート	
しぐさ・行動（非言語的）	ことば・言い回し（言語的）
相手の目を見る	説明してくれる？
身を乗り出す	やって見せて？
興味深そうな表情をする	どうやってするか説明して
受容的な態度・姿勢をとる	どうやったらその答えになるの？
	例を見せて

＜引用＞

Johnson, D. W., Johnson, R. T. (1996). *Meaningful and manageable assessment through cooperative learning*. Edina, MN : Interaction Book Company. (ジョンソン, D. W., ジョンソン, R. T. 石田裕久 (訳) (2016). 協同学習を支えるアセスメントと評価 日本協同教育学会

個 人 の 評 価

No. _____

班・メンバー	個人	の	評	価	グループへ貢献すること
班 氏名					
月 日	点				点
月 日	点				点
月 日	点				点
月 日	点				点
月 日	点				点
月 日	点				点
月 日	点				点

グループの評価

No. _____

班・メンバー		グループの目標	
班			
メンバー		個人の目標	グループへ貢献すること
月 日	点	できていること	
		よくすること	
月 日	点	できていること	
		よくすること	
月 日	点	できていること	
		よくすること	
月 日	点	できていること	
		よくすること	

月 日	点	できていること
		よくすること
月 日	点	できていること
		よくすること
月 日	点	できていること
		よくすること
月 日	点	できていること
		よくすること
月 日	点	できていること
		よくすること